

# 生産者間で栽培管理状況を情報共有できる 「通り農業支援システム v2」の実証

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業  
小事業名 特定復興再生拠点区域等の円滑な営農再開に向けた技術実証  
研究課題名 通り農業支援システム等を活用した栽培状況の可視化と評価〔農林水産分野の先端技術展開事業（JPJ009997）、特定復興再生拠点区域等の円滑な営農再開に向けた技術実証（JPFR24060105）〕  
担当者 小林航太、佐藤優平、山下善道（農研機構東北研）、稲葉修武（農研機構東北研）、星典宏（農研機構東北研）、内藤裕貴（東京大学）

## I 新技術の解説

### 1 要旨

通り農業支援システムは安価かつ簡便なハウス遠隔監視システムであり、県内の生産者において導入されている。そこで、複数人で栽培管理状況を共有できる「通り農業支援システム v2」（農研機構開発）を営農再開地域のトルコギキョウ生産者間で実証したところ、効率よくデータの共有と情報交換が可能であった。

- （1）「通り農業支援システム v2」では栽培管理に関するデータを取得でき、生産者のデータを相互に閲覧することができる（表1、図1）。
- （2）「通り農業支援システム v2」を導入した生産者へのヒアリング調査では、非熟練者からは栽培に関する質問がしやすいこと、熟練者からはデータを見ながらアドバイスがしやすくなったとの意見が出された（表2）。
- （3）実証結果を基に活用情報をまとめた「通り農業支援システム v2」作成マニュアルが公開される予定である。

### 2 期待される効果

- （1）トルコギキョウをはじめとした施設園芸品目の生産者間の効率的な情報共有に役立つ。

### 3 活用上の留意点

- （1）本システムを導入する際には、相互に報告や相談ができる場として効率よく活用するため、栽培品目の栽培暦を共有し、報告や相談を行う手法を取り決めるなど、事前に運用方法を決めておく必要がある。

## II 具体的データ等

表1 通い農業支援システム v2 の特徴

	通い農業支援システム	通い農業支援システムv2
公開年	2021年	2026年
データの利用方法	個人で確認	複数経営体、指導的立場の者と共有
通知データの種類	環境データ	環境データ、生育画像、かん水管理データ等

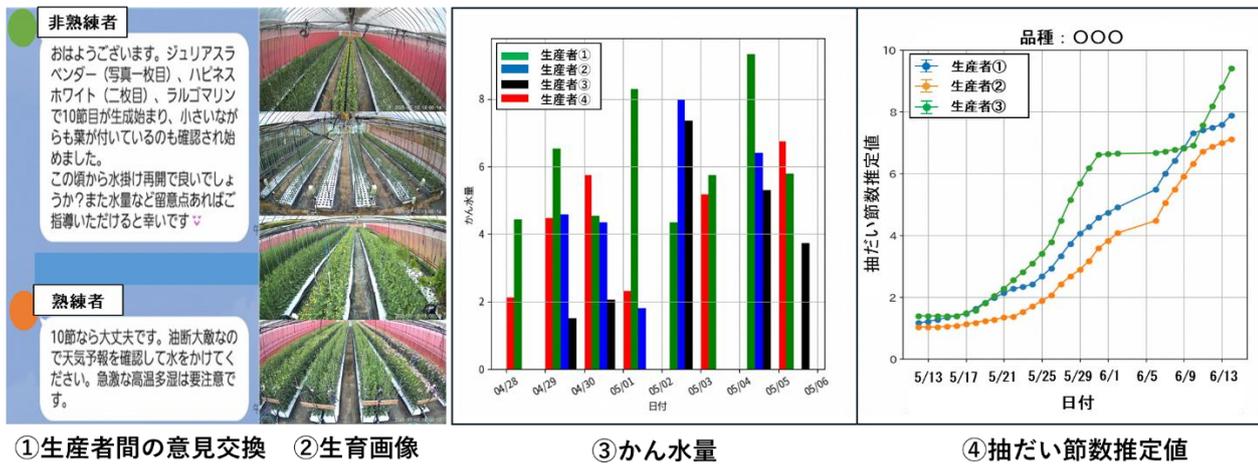


図1 データ共有の例

表2 ヒアリング調査結果の主な内容

生産者名	ヒアリング内容
非熟練者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メッセージ共有アプリでの意見交換の場ができたのでわからないことを聞くことができた。</li> <li>・温度や土壌水分に関する通知については栽培管理に役立った。</li> <li>・温度管理の誤りに気がついた後、ハウス管理を調整し熟練者と同じ温度管理になると達成感があった。</li> </ul>
熟練者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通知などで非熟練者とメッセージ共有アプリ上でつながっていると指導しやすい。指導の機会ができる。</li> </ul>

※1 ヒアリング調査は試験ほ場主の非熟練者及び熟練者に対して行った。

※2 2022年3月～2025年9月の間に複数回ヒアリング調査を行った結果の一部である。

## III その他

### 1 執筆者

小林航太

### 2 実施期間

令和3～7年度

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 生産者間で栽培管理状況を情報共有できる通い農業支援システム v2 作成マニュアル(仮題)  
(2025) 農研機構東北農業研究センター
- (2) 佐藤優平ら, 営農再開地域のストック及びトルコギキョウ栽培における通い農業支援システムの活用と評価, 東北農業研究, 2023, 76, p91-92.
- (3) 令和2年度営農再開実証技術情報「IoT 機器を使ったほ場の温度通知システム」福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター